月次祭 理事長挨拶

「月次祭」、おめでとうございます。
災害とまで言われた夏の極暑も少し和らぎ、明け方の虫の音にかすかな秋の気配を感じるようになりました。
この夏も、〇之光教団に関わるすべての皆さまと共に、「祈りの言葉」を中心とした“想念の御用”をもって「会う、聞く、浄霊」に努めるなど、「メシアの御名」をお受けしているものとしてお仕えさせていただけましたこと、主神とご一体であられる明主様に心より感謝申し上げたいと存じます。

先程は、全国の信徒の皆さまを代表して、〇〇布教区〇〇布教所の〇〇〇〇さんが感謝奉告をしてくださいました。ありがとうございました。
〇〇さんは、日々の生活の中で、教主様がお示しくださった「三つのお言葉」を中心とした“想念の御用”を実践し、信仰の革正へと導かれているお話をしてくださいました。
今、私どもは、自らをはじめすべてのもののうちに、大光明燦然と輝く天国が存在し、本当の命の親であられる神様が生きておられることを知るという、本当の救いに目覚めさせていただいています。
私どもは、この天国の福音を先ず自らが真剣にお受けし、多くの方に積極的にお伝えしていく“全く新しい布教”としてのお導きやお世話に、明るく楽しく心裕かに向かわせていただきたいと存じます。

さて、世界救世教では、東方之光(ＭＯＡ)といづのめ教団小林執行部、そして、その庇護のもとにある聖地直結の会の人たちが、包括責任役員会と称する架空の組織の名のもとに、教主様と共にみ教えの神髄を求めて歩む〇之光教団といづのめ教区に対して、教団から追放しようとする執拗な攻撃に今もって明け暮れています。
私どもは、こうした動きに対する対応は勿論のこと、この度の教団の混乱の中に間違いなく存在する神様のみ旨を真摯に受け止め、自らの信仰の革正に向かうことを何よりも大切にしてまいりました。
私は、教主様がみ教えの神髄を求めてご教導くださる“主神の全く新しい救いのみ業”こそ、本教を最終的に「世界救世(メシヤ)教」とされた明主様のみ心に真っ直ぐに繋がっているものと固く信じています。
ですから、私どもは、この「全く新しい信仰」をひたすら求めてお受けし、日常生活の中で“想念の御用”として実践させていただき、一人でも多くの方

に本当の天国の福音をお伝えしていくことを第一に掲げて進ませていただいております。

こうした中で、今私どもは、いづのめ教区との連携・協働という新しい体制のもとお使いいただいています。
私は、いづのめ教区の方々の新しい信仰を求める信仰情熱もさることながら、お一人おひとりが“想念の実践”をもってご神業奉仕に努力をされているお姿の一端に触れ、私自身もさらに新しい信仰に目覚めさせていただきたいという思いを強く持たせていただいております。
また、先月には、㋹之光教団の中に東方之光教区も設置され、教主様に対する尾行・盗聴・盗撮に始まり、遂には、教主様の推戴取り消しや、岡田宗家の方々の追放にまで及んだ東方之光(ＭＯＡ)に不信を募らせる方々と共に、新しい信仰を学び実践する動きも始まっています。
私は、今、全世界のすべての世界救世教信徒が、様々な状況のもとで、「全く新しい信仰」の大きな養いをお受けしているものと受け止めています。
私どもは、明主様が「大転換」「180度の転換」とみ教えくださっている、その大きな信仰の革正の中に身を置かせていただいています。
明主様は、昭和29年6月5日、碧雲荘において、「メシヤが生まれた」「新しく生まれる」ことを、ご自身の御言葉をもってご発表になりました。
教主様は、この御言葉について、私ども一人ひとりも、明主様を模範として、神様の子どもたるメシアとして、もう一度新しく生まれることとしてお示しくださいました。
私は、このことが、今、教主様を通して明主様より賜っている「全く新しい信仰」の核心であると受け止めさせていただいています。
この教主様のご教導をお受けすることが、私どもにとっての信仰の「大転換」「180度の転換」であり、「革正」であると存じます。
私は、ここに、“明主様の真実”に導かれる道があるものと受け止め、皆さまとご一緒に、「メシアの御名」に結ばれたものとしての道を一途に進ませていただきたいと存じます。

また、この夏、私自身の信仰に対する認識を大きく新たにさせていただく出来事がありました。その出来事を通して、私は、私自身の思いを遥かに超えて、神様が新しい創造のみ業を大きく展開されているのではないかと思い知らされました。
皆さまが思い描く、聖地･瑞雲郷に位置する㋹之光教団総本部ご神前は、

どんな所なのでしょうか。先日、この総本部ご神前に、遠く海外からいづのめ教区を通じて一件のご祈願が届きました。

主神が、明主様と共にあるメシアの御名にあって、すべてを赦し、浄め、救い、甦らせ、神の子メシアとして天国に迎え入れてくださるために、ご浄化をお与えくださっている、という信仰をもってご祈願していただける所は、世界救世教の世界中の聖地の中で ⓥ 之光教団総本部ご神前しかない。これが、海外から ⓥ 之光教団にご祈願が届けられた理由でした。

早速、教主様のご教導のもと、白澤代表をはじめとするいづのめ教区の執行部の方々と総本部の祭員が、心ひとつに“主神の全く新しい救いのみ業”の中にあるご祈願を務められました。

このことをお聞きになった海外の信者さんは、たいへん厳しい状況の中におられながら、大きな喜びに包まれ、感謝いっぱいの御礼状を送ってこられたそうです。

海外の信者さんは、「私たちの祈願願いは教主様に奉告されたことを知り、教主様が明主様にお委ねしてくださり、（教主様を）非常に身近に感じさせていただきました。また、私たちの中に神様が生きていること、神様の御光は確かにすでに私たちの中にまで到達していること、そして、私たちはすでに昼の時代を生きていること―教主様へのご奉告がなされたことを通して、これらのことを強く感じさせていただきました」と仰っていました。

私ども ⓥ 之光教団の専従者や信徒は、聖地を思う時、また、聖地に身を置かせていただく時、私ども一人ひとりのうちに神様が生きておられ、大光明燦然と輝く昼の世界に迎え入れてくださっていることに、真っ直ぐ心を向けているでしょうか。

今、神様は、ⓥ 之光教団を新しい教団へと進化成長させてくださり、「全く新しい信仰」という大いなる救いのみ業の中で、私どもをお使いくださっているのではないでしょうか。

私は、この度の海外からのご祈願のお話を通して、神様がこのことを私どもにお知らせくださった出来事であると受け止めました。

今、明主様は、私どもといづのめ教区との連携・協働を通して、より一層“主神の全く新しい救いのみ業”に目覚めさせてくださっているものと思わせていただきました。

そして、このことはご祈願に関してのみではなく、私どもがすべてのご神業奉仕において、大切に見つめ直さなければならない極めて大切なことなのではないかと思わせていただきました。

私どもは、このような大いなる信仰の目覚めに導かれる中、来月8日に本

年の「秋季大祭」を迎えることとなります。
　本年の「秋季大祭」は、いづのめ教区と東方之光教区の方々とご一緒に教主様のご出座を仰ぎ、「インテックス大阪」において5,000名規模の大祭として執り行わせていただきます。
　教主様は、先般の「祖霊大祭」の折、祭典について、主神が私どもの意識の中心に存在する天国において、祭典を開いてくださっているということ、その上で、この地上でも祭典を行うことを赦してくださっている旨お示しくださいました。
　そして、「主神が現れるために、祭典がある」と仰せになり、祭典とは、私どもに繋がるすべてのものを天国に集められ、お受け取りになっている神様の救いのみ業そのものであることをご教導くださいました。
　私どもは、「全く新しい信仰」をお受けしたものとして、日常生活の様々な場面で「祈りの言葉」を中心とした“想念の御用”に努め、明主様と共にあるメシアの御名にあって、全人類とその父母先祖の方々と共に、万物と共に、天国の祭典に参加させていただきたいと存じます。
　私ども一人ひとりをご自身の子として迎え入れようとしてくださっている主神が主宰される「秋季大祭」に、そして“明主様の真実”をお伝えくださる教主様が祭主を務められる「秋季大祭」にご参拝をさせていただくことは、全世界の人々に賜っている大きな大きなみ恵みであると存じます。
　私どもは、大いなる喜びと感謝と希望をもって、この千載一遇のみ恵みを率先してお受けさせていただきましょう。

　最後に、〇之光教団では本日より、総本部ご神前の祖霊床の“御幌（みとばり）”、教団では“みほろ”と申しております、を外すことといたしました。
　私どもは、明主様から、人間一人ひとりは無数の祖先の綜合体である旨み教えいただいております。
　また、明主様は、「万人を救ふといふは永遠の生命の道を諭ゆるにあり」とのお歌をお詠みになっています。
　にもかかわらず、私は長い間、先祖の方々に対して、自分とは遠く離れたところにおられる、亡くなられた存在であると思い込んでおりました。
　誠に申し訳ないことであったと存じます。
　教主様は、先祖の方々も、主神のみもとにあって、私どもと共に生きておられることを繰り返しご教導下さっています。
　私どもは今、こうしたご教導を通して、私どもと先祖の方々とは一体の存在であることに目覚めさせていただきました。

〇之光教団では、こうした受け止めのもと、教主様のご了承をいただいて、この度祖霊床の“みほろ”を外すことといたしました。
私どもは、主神の大いなる愛と赦しと救いを賜り、先祖の方々と共に、神様の子どもたるメシアとして新しく生まれる養いをお受けし、“主神の全く新しい救いのみ業”にお仕えさせていただきましょう。

まだまだ残暑の日々が続きますが、「秋季大祭」に向けての今月度の皆さまのご神業奉仕の上に、大いなるみ恵みと安らぎを賜りますよう、お祈りいたしております。
ありがとうございました。